

【目的】

体育での「サッカー」への取り組みにくさを解消することで、

小学校体育で「サッカー」を取り扱う機会を増やす！

また、子どもたちがサッカーというスポーツに“出会い、親しむ”機会を増やすことで、サッカーファミリー拡大へと繋げたい。

【経緯】

小学校の体育授業で、「**サッカー**」を取り扱うことが少なくなっている！

〈理由〉

- ①これまで必ず行われていた「サッカー」が、必ずしも扱わなくてよいことになった。
※平成20年学習指導要領改訂→「ゴール型ゲーム」と一括りで扱われることに変更された
- ②天候に左右されない屋内スポーツが扱われる傾向にある。
※「バスケットボール」「ポートボール」「タグラグビー」「フラッグフットボール」など
- ③技能差が大きく、評価しづらい。
※技能の伸びを感じにくい、ポイントがわかりにくい

小学校体育で、「**サッカー**」ができるようなプログラムを開発！



【2017年度 実践について】

- ①花川氏・平が、それぞれ勤務する小学校で体育科の授業として「サッカー」を取り扱う。
- ②『小学校体育サポート インストラクター研修会』のカリキュラムをベースに授業をする。
- ③授業校や近隣校の先生方、WFA役員様及び技術委員会役員様等に授業参観していただく。
- ④授業者が作成する報告書と併せて、今後の事業展開について検討する。

【授業日程】平：かつらぎ町立妙寺小学校

- ①2月16日（金） 11：25～12：10 「単元の見通し・進め方の理解」
- ②2月20日（火） 11：25～12：10 「パスをしよう（1）」
- ③2月21日（水） 9：25～10：10 「パスをしよう（2）」
- ④2月23日（金） 11：25～12：10 「シュートをしよう（1）」
- ⑤2月27日（火） 11：25～12：10 「シュートをしよう（2）」
- ⑥2月28日（水） 9：25～10：10 「みんなで運ぼう」
- ⑦3月 2日（金） 11：25～12：10 「リーグ戦をしよう（1）」
- ⑧3月 6日（火） 11：25～12：10 「リーグ戦をしよう（2）」

【単元構成】

指導計画におけるサッカーの位置 **中学年 01**

【最初にやるべき活動の時間配分】 20分程度

パスをしよう

ウォーミングアップ 活動1

活動2 ゲーム

1時間程度で、私の規定を何日か決まるとして、担任1人で準備を行う場合、項目もかなり減らす必要があります。指導計画では、意図の観点から、必ずしも習得しなければならない項目を取り除くように調整しています。

ウォーミングアップ 活動1

●コーン取りおに(おにきになって)

●ボールコントロール

活動2 多対多ゴールゲーム

ゲーム 3対3

1時間程度で、私の規定を何日か決まるとして、担任1人で準備を行う場合、項目もかなり減らす必要があります。指導計画では、意図の観点から、必ずしも習得しなければならない項目を取り除くように調整しています。

② ③ 時間目

パスをしよう

指導計画におけるサッカーの位置 **中学年 02**

【最初にやるべき活動の時間配分】 20分程度

シュートをしよう

ウォーミングアップ 活動1

活動2 ゲーム

2時間程度で、私の規定を何日か決まるとして、担任1人で準備を行う場合、項目もかなり減らす必要があります。指導計画では、意図の観点から、必ずしも習得しなければならない項目を取り除くように調整しています。

ウォーミングアップ 活動1

●ボール集めゲーム

●ストップボール

活動2 シュートゲーム

ゲーム 3対3

2時間程度で、私の規定を何日か決まるとして、担任1人で準備を行う場合、項目もかなり減らす必要があります。指導計画では、意図の観点から、必ずしも習得しなければならない項目を取り除くように調整しています。

④ ⑤ 時間目

シュートをしよう

指導計画におけるサッカーの位置 **中学年 03**

【最初にやるべき活動の時間配分】 20分程度

みんなで運ぼう

ウォーミングアップ 活動1

活動2 ゲーム

3時間程度で、私の規定を何日か決まるとして、担任1人で準備を行う場合、項目もかなり減らす必要があります。指導計画では、意図の観点から、必ずしも習得しなければならない項目を取り除くように調整しています。

ウォーミングアップ 活動1

●ステップ1：ボール1人1個

●ねこどねずみ

活動2 ラインゾーンゴールゲーム

ゲーム 3対3

3時間程度で、私の規定を何日か決まるとして、担任1人で準備を行う場合、項目もかなり減らす必要があります。指導計画では、意図の観点から、必ずしも習得しなければならない項目を取り除くように調整しています。

⑥ 時間目

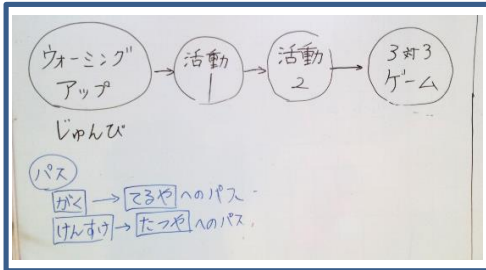
⑦ ⑧ W-up

みんなで運ぼう

【授業参観報告】

授業日 2018年2月21日

報告者 指導者養成部長 中岡暁紀



授業（45分）の流れは4部構成で♪



使うのは新聞紙を丸めたボール



コーンは自分達でセッティング
やり方さえわかれば自分達で準備します！



3人で手をつなぎゴールを守る未来のなでしこたち



ゴールを守れ！未来の守護神たち



授業者（平先生）から一言！

この授業を始めてから、休憩時間に男女入り混じって「サッカー」をすることが増えました。サッカーに「出会い・親しみ」場の提供として、すごく効果があると感じています。普段はボール運動をしない女子が「柔道やめてサッカー習おうかな！」と言っていたのも印象的でした。

授業者（A先生）から一言！

苦手意識を持たずにできる工夫があって、一つ一つレベルアップできるようになっている。楽しんでやったことがゲームに繋がっているのがすごいと思いました。「サッカー」を、スモールステップで学習できることも発見でした。子どもたちが楽しそうにやっているのを見て楽しい！自分も授業をして楽しいです！

【授業を終えて】

報告者 指導者養成部 平 祐基

成 果

1. 教材として

- ・オーガナイズが簡単で、W-up から大きな変更なく GAME まで流れるのが良い。
- ・W-up から GAME までがスモールステップで繋がっていて分かりやすい。
- ・新聞ボールは、技能差を埋めることと、怪我の防止に有効であった。
- ・低～中～高の積み上げが示されているので、学級（学年）の実態に応じたものを選べる。
- ・他の体育授業でも使えるメニューが多い。
- ・チームスポーツから学べることが詰まっている
※勝敗・リスペクト・反スポーツ的行為に対する警鐘・向上心・達成感・協力

2. 子どもたち

- ・シンプルなルールが多く、何度かやっているうちに理解できていた。
- ・活動する場の準備や変更を自分たちでできる。（見通しが持ちやすい）
- ・参加意識が高まった。
（マイボールを用意していること・活動量が多く、見ているだけの時間が短いこと）
- ・休憩時間に男女ともサッカーをするようになった。
- ・相手に怪我をさせる行為に気付くことができた。

3. 教師

- ・単元に見通しが持てて、余裕ができる。
- ・準備物が整理されており、活動中に次の準備ができる。
- ・子どもたちの活動を「楽しく見守る」「応援する」ことが自然とできる。
- ・評価の視点が示されていて、GAME を観るポイントが意識しやすい。

課 題

1. 教材として

- ・用具の有無が活動を左右する。 ※なければアレンジが必要。
- ・新聞ボールは何度か修理が必要。
- ・50人で行うには、本校の体育館（バレーボールコート2面）では狭かった。
※ゲーム等にはアレンジが必要。

2. 子どもたち

- ・特になし

3. 教師

- ・授業の進め方の理解は必要（説明を短く、見せてやらせて進める、気付かせる、ほめる）
- ・子どもの実態に応じたアレンジ力

【アセスメントより】

報告者 指導者養成部 平 祐基

授業を参観していただいた先生方に、アセスメントを書いていただきました。

本校・近隣校合わせて7名の先生方（教諭5名・管理職2名）に参観していただきました。

授業の流れについて

- W-up～GAME まで、常に運動量があり、45分にまとまっているのがよかった。
- 活動1や活動2が、スモールステップで繋がっているのが、すごく分かりやすい。

場の設定について

- コーンやフラフープだけで準備ができるのは、簡単で良い。
- 子どもたち自身で準備できているのが良い。
- W-up～GAME まで場の設定が簡単。特に活動1～活動2の移行がスムーズで良かった。
- 次の活動を考えて工夫されていた。

子どもたちの様子について

- とても意欲的。ミニサッカーを本当に楽しんでいるように見えた。
- GAME を自分たちで進められるから、楽しいんだと思う。
- 頭を使いながら取り組んでいた。
- 友達やチームメイトとの会話（私語ではなく）が多い。作戦タイムは必須。
- ルール（やり方）が理解できていない子がいたので、支援があれば良かったと思いました。
- 「もう終わりか」と呟いた子がいっぱいいた。集中して楽しんでいたのだと思う。

自身の授業に活かせること

- W-up は、どの単元でも使えそう。体を動かしながらも頭を使う必要があり、ゲーム性があるのが良かったと思う。
- パスを、身体のいろんな部位で止めるのは、「多様な体の動きづくり」にも役立てられる。
- 新聞ボールはぜひ使ってみたい。
- GAME で、手つなぎキーパーと壁役があるのは面白い。運動量も確保できるので使いたい。

研修会への参加について

- ぜひ参加したい（教諭5名）
- 実践できる場がないが参加したいという興味はある（管理職2名）

<ご意見>

- 単に「止める」「蹴る」などの技能の上達だけでなく、頭を使って楽しみながらできていたので、研修を受けて実践していきたい。
- 自ら実践して、他教員に伝えていくためにも、研修を受けたい。

その他、感想

- 初めて、サッカーのきちんとした授業を見ました。
- 先生たちが楽しそうでした。

【おわりに】

報告者 指導者養成部 平 祐基

今回の「小学校体育サポート」に係る授業実践は、3年生 A・B 組の合同体育で行いました。単元途中に、平が担任する A 組がインフルエンザによる学級閉鎖となったため、B 組単独で体育「ミニサッカー」をする機会がありました。B 組の担任は、採用3年目の20代女性で、サッカー経験はなく、体育授業でもサッカーをしたことがない先生ですが、単元を通して一緒に体育授業をした経験から、一人で「ミニサッカー」の授業を実践してくれました。その様子をご紹介します。

ウォーミングアップ 「ドリブルだるまさんが転んだ」



子どもたちの課題
「ボールを運ぶ」の上達を目的に
低学年の教材から選びました

GAME 3vs3 (男子)



パスを要求する子が増え
ゲームも盛り上がっていました

GAME 3vs3 (女子)



見ている指導者も楽しい♪

まだまだボールを蹴ってしまうだけの女子が多かったので、教科書を見てみたら、低学年の「ボールを運ぶ」という教材がおもしろそうだなと思い、実践してみました。

ボールを遠くに蹴ってしまうと「だるまさんがころんだ」の合図で止められないので、子どもたちは足の近くでボールを運ぶことが自然と身に付きました。

GAME では、ボールを蹴ってしまう子もたくさんいたけど、相手をかわそうとする子もいて、また成長を感じました。

この女性の先生は、「小学校体育サポート」の研修を受けられたわけではありませんが、今回「ミニサッカー」の授業の中で、場の設定やゲームの進行を一緒にしていただきました。「決して体育が得意ではない」という先生でしたが、授業を自分一人で作って、進められる指導者になれたのは、「子どもの課題や成長をとらえること」「教材を工夫すること」という教師の仕事と重なる部分があったからではないでしょうか。

今回の実践を通して、体育授業が苦手な先生方にこそ「サポート」できるという実感を持つことができました。ぜひ先生方を対象とした研修会を開催し、広めていきたいと考えます。